

反人身取引キャンペーン：ラノー県

1月22-23日、タイ南部のラノー県で政府の反人身取引キャンペーンの集会が開かれました。プロジェクトもブースを出して参加しました。これは昨年9月に、アピシット首相が国を挙げて人身取引問題に取り組むとの宣言をしたこと（MDT通信41号参照）を受けて、問題が深刻な、タイの各地域で展開されている啓発活動です。

ラノー県はバンコクから南に約600km、アンダマン海に面しており、人口は16万人強で人口が最も少ない県で、主な産業は漁業（水産業）とゴム栽培です。県は169kmに渡ってミャンマーと国境を接しているため、ミャンマーからの移住者が多く、巷間ではタイ人よりはミャンマー人の方が多いのではないかとされているほどです。



キャンペーンの初日はまず4人の識者による対談から始まりました。スピーカーはタイ警察反人身取引部および最高検察庁国際局の各トップの他、タマサート大学法学部教授、社会開発人間安全保障省の県事務所長という錚々たる方々でした。約300人の聴衆に人身取引の定義やタイ政府の取り組みなどが紹介されました。話の中で警察のチャチャワン長官補佐は、彼の任期中に現場の警察官に人身取引の問題を周知することを約束しました。

スピーカーはまた人身取引の問題はビジネスの問題でもあることを強調していました。ラノーの主な産物である水産加工品が人身取引被害者により生産されていると分かったら、欧米の国々が輸入を禁止するおそれがあるので人身取引を

止めることは経済のために必要ということです。

キャンペーンの2日目、日曜日の夕方からの催しは屋外で行われました。ラノーはタイで最も降雨量が多いところだそうで、当日も雨にたたられ、せっかく設置したブースに資料を並べたり片づけたり苦勞しましたが、地元の人は慣れている様子で傘や雨合羽を着て参加していました。今回はプロジェクトの説明資料を袋に入れて配布したところ大人気で、行列ができ



るほどでした。参加者は他のブースで配布された資料を入れる袋が必要だったようです。袋にはJICAおよびプロジェクトのロゴを大きく入れておりましたので、その袋を持って歩いている人を見かける度に作戦成功とひそかに喜びました。

集会では、社会開発人間安全保障省大臣はじめ主だった人身取引対策の政府の関係者が壇上に上がって、雨の中集まってきた人びとに、人身取引に関する啓発メッセージと政府が取り組むとの力のこもった挨拶を行いました。その後、盛大に花火が打ち上げられ、またお楽しみのコンサートも開かれました。今回のコンサートには、ミャンマー人の人気歌手ノーノーも招かれており、ラノー在住のミャンマー人にも是非参加してほしいとの、タイ政府の強い思いが伝わってくるプログラムでした。